

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

(北九州市における実施のイメージ図～疾病予防・重症化予防の視点から～)

厚生労働省資料一部改変

資料5-(1)

目指すところは… **健康(幸) 寿命の延伸(プラス2歳)・社会保障の安定**

本市の健康課題

●**高齢化率**
30.7% (R1)
うち、75歳以上の割合が5割を超え、今後も上昇傾向。国より高い水準で推移。

●**医療費**
(H30年度：一人当たり(年額))
市：121.7万円
県：117.9万円
国：94.3万円

【入院医療費上位疾患】
骨折、脳梗塞、慢性腎臓病
【外来医療上位疾患】
慢性腎臓病、高血圧症、糖尿病

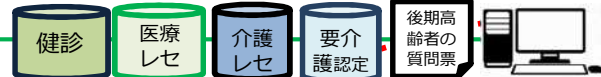
●**介護給付費**
(H30年度：一人当たり(年額))
市：30.3万円
県：26.1万円
国：25.7万円
【有病状況】
国・県に比べて、糖尿病、高血圧症、心臓病、認知症の割合が高い。
(KDBより)

期待される役割

要介護状態にならないための
重症化(認知症)予防

健康推進課(企画調整：保健師)

- ①KDB(国保データベース)システム等で健診・医療・介護データを分析(データヘルス計画等の分析結果も活用)
- ②重点課題を明確化、事業の企画調整、対象者の把握
- ③PDCAサイクルに基づき事業展開と評価を行う



④多様な課題を抱える高齢者を把握し、アウトリーチ支援等を通じて、必要な支援に接続。

北九州市一体的実施局内連携会議

総務課、保険年金課、介護保険課
健康推進課、地域福祉推進課
認知症支援・介護予防センター

健康推進課、各区役所保健福祉課、地域包括支援センター、認知症支援・介護予防センター

保健事業

疾病予防・重症化予防



- ⑤国民健康保険と後期高齢者医療制度の保健事業を接続・重症化予防対策・糖尿病性腎症重症化予防
- ⑥個別的支援
・糖尿病性腎症重症化予防
・低栄養防止・生活習慣病等重症化予防

～生活習慣病予防・フレイル予防～

- ⑦地域活動の場への専門職(運動、栄養、口腔、生活習慣病予防・重症化予防)によるアウトリーチ
・健診受診勧奨
・健康教育、健康相談
・サロンで健康づくり
・地域でGO!GO!健康づくり
・高血圧ゼロのまちモデルタウン事業
・地域包括支援センターによる相談支援など

介護予防の事業等

生活機能の改善 (生活習慣病予防・フレイル予防)

- ⑧短期集中予防型サービス(サビズC)
- ⑨介護予防事業
・元気で長生き食卓相談
・筋力向上トレーニング啓発教室 など
- ⑩地域での住民主体の介護予防活動支援
・介護予防リーダー(きたきゅう体操普及員等)の育成
・健康づくり推進員の活動
・食生活改善推進員の活動

かかりつけ医等の多職種との連携強化

- ⑪健康課題や事業の実施状況等の情報共有、健診・医療受診勧奨、フレイル予防の普及啓発等の実施

★地域での活動の場において、KDBシステム等で把握した**地域の重点課題**をもとに**保健医療の視点**から保健師等が健康教育・健康相談等を実施する。

【財源】
後期高齢者医療

公費(約5割)・現役世代からの支援(約4割)・保険料(約1割)

広域連合からの委託を受けて実施
(保険料財源+特別調整交付金)

